

命をつなぐ イラクの国内避難民に対する日本・UNFPAの共同支援

原稿執筆：国連人口基金（UNFPA）ソマリア事務所 谷口英里（ジェンダーに基づく暴力対策専門官）

国連人口基金（UNFPA）は、一人ひとりが「子供を、いつ、何人産むか」を選択できる権利を持ち、すべての妊娠が望まれ、すべての出産が安全に行われるために活動をしています。

私は2016年9月から12月の4か月間、人道支援活動をサポートするため、UNFPAイラク事務所へ出向しました。UNFPAイラク事務所は、2016年より日本政府の支援を受けて、難民・国内避難民・帰還民の女性が包括的なリプロダクティブヘルス・サービス（家族計画、性感染症の予防と治療、妊産婦及び周産期死亡率の予防を含む一連のサービス）を利用できるよう活動を行っています。



リプロダクティブヘルス・クリニックで
サービスを受ける女性たち（1）



リプロダクティブヘルス・クリニックで
サービスを受ける女性たち（2）

昨年5月、イラク政府は、イラク・レバントのイスラム国（ISIL）の勢力が国内で2番目に強いファルージャを奪還するため、軍事作戦を開始しました。その結果、短期間で8万5千人以上の国内避難民がファルージャ周辺に流れ込み、人道支援に携わる機関は必要な基本的社会サービスを素早く提供する必要に迫られました。

このような中、UNFPAは、軍事作戦開始前に日本政府の支援を受けて、3か所の国内避難民キャンプに開設していた産院を拠点とし、産前・出産・産後サービスを直ちに提供することができました。

更に、国内避難民の動きに合わせ、国内避難民キャンプに到着する前から必要なサービスへアクセスできるよう、移動医療チームを送り込んだり、増加するニーズに対応するため、追加でリプロダクティブヘルス・クリニックを開設しました。

リプロダクティブヘルス・クリニックは、産院とは違い、実際の出産に関わるマタニティ・サービスは行いませんが、それ以外の産前・産後ケアや家族計画、性感染症など生殖器系感染症の診断と治療、女性に対する健康相談といった一連のサービスを提供するクリニックです。これにより、ファルージャの国内避難民に質の高いリプロダクティブヘルス・サービスを提供することができ、軍事作戦開始後の4週間で3百件以上の出産が安全に行われました。こうした結果を受け、UNFPAはその迅速な対応をイラク政府・ドナー・他の人道支援機関などから感謝されましたが、これも日本からの支援があったことです。



移動式リプロダクティブヘルス・クリニックへ集まる人々



国内避難民キャンプ内にある産院



国内避難民キャンプにある
簡易式リプロダクティブヘルス・クリニック

3か所の国内避難民キャンプにある産院のひとつを、2回訪れる機会を得ました。

この国内避難民キャンプでは、いまだに自分たちの家に戻れないおよそ8千世帯の国内避難民が生活しています。偶然にも、一人の女性の出産に立ち会うことができました。こうした厳しい状況の中でも新しい生命が生まれ、同時に新たな希望の芽も生まれてくることに深く感銘を受けると共に、新しい命の誕生と母親の安全を守るというUNFPAの使命に誇りとやりがいを感じた時でもありました。



アミリヤート・ファルージャの
国内避難民キャンプにある産院への視察



アミリヤート・ファルージャの産院内で産婦人科医と共に

現在イラクでは、3百万人以上の国内避難民が3,700か所で生活しており、また、主にシリアからの難民も20万人以上います。

2016年10月より始まった、ISILからのモスル奪還作戦により、国内避難民の数は更に増え、奪還作戦の進捗状況によっては、2017年には更に120万人の人々が家を離れることを余儀なくされる可能性もあると言われてしています。こうした中で、UNFPAは引き続き日本政府及び様々なパートナーとの連携をもとに、迅速に人道支援を展開し女性の尊厳を守っていきます。